

# 平成 27 年度 環境に関する市民意識調査

## 【結果概要】



横浜市環境創造局

平成 27 年 8 月



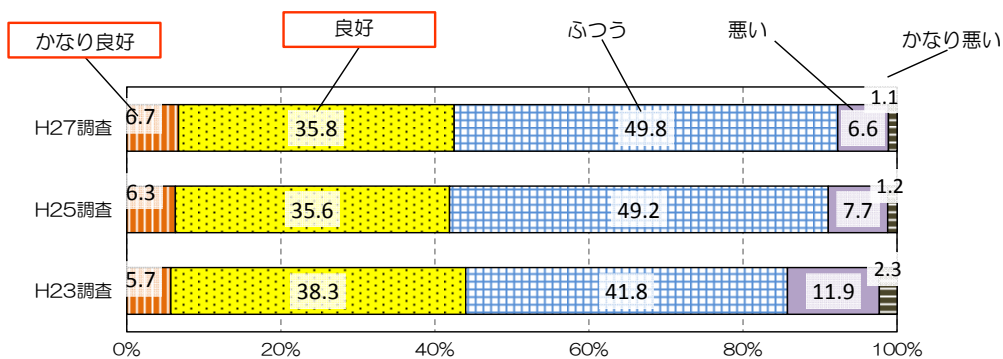
# 環境問題に対する関心や行動について

- 横浜の環境が「かなり良好」「良好」という回答は約4割となっており、調査開始以来、ほぼ横ばいです。また、10年前との比較では60代以上の世代が最も多く「かなり良くなった」「良くなった」と回答しました。
- 関心のある環境問題については、例年「空気の汚れ（大気汚染）」「河川や海の汚れ（水質汚濁）」がいずれも多い回答となっており、生活環境に対する関心の高さは現在においても伺えます。中でも「大気や騒音・振動などの生活環境」に不満を感じている人は、減少傾向にあるものの、依然として満足に感じている人と同程度の数となっています。
- 回答者の7割近くが「『生活の便利さ・快適さ』よりも『環境の保全』を優先すべき」と考えています。横浜市民の皆さまの環境問題への関心の高さが伺えます。
- 環境に配慮した行動を後押しするものとして、例年回答が多いのは「自分の行動が環境に貢献していることが目に見えて実感できること」「経済的な余裕があること」です。横浜市では、環境に関する取組への助成や支援を行う様々な制度を設置しており、これらを活用していただけるよう、より一層の情報発信を行う必要があります。

## Q1. 現在の横浜の環境について経年変化



「かなり良好」「良好」が約4割で横ばい傾向

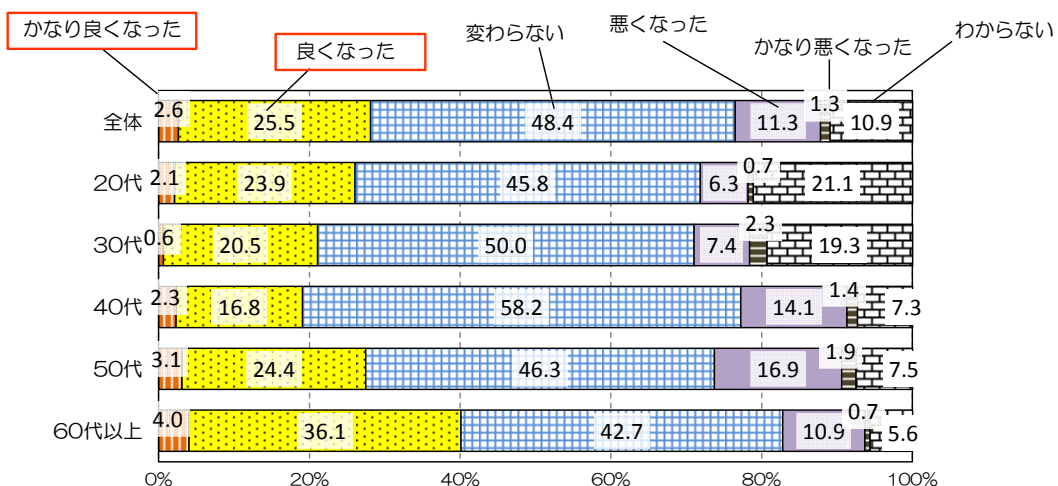


隔年の調査結果でグラフを整理しています。

## Q2. 10年前と比べた現在の横浜の環境について



60代以上が最も多く「かなり良くなった」「良くなった」

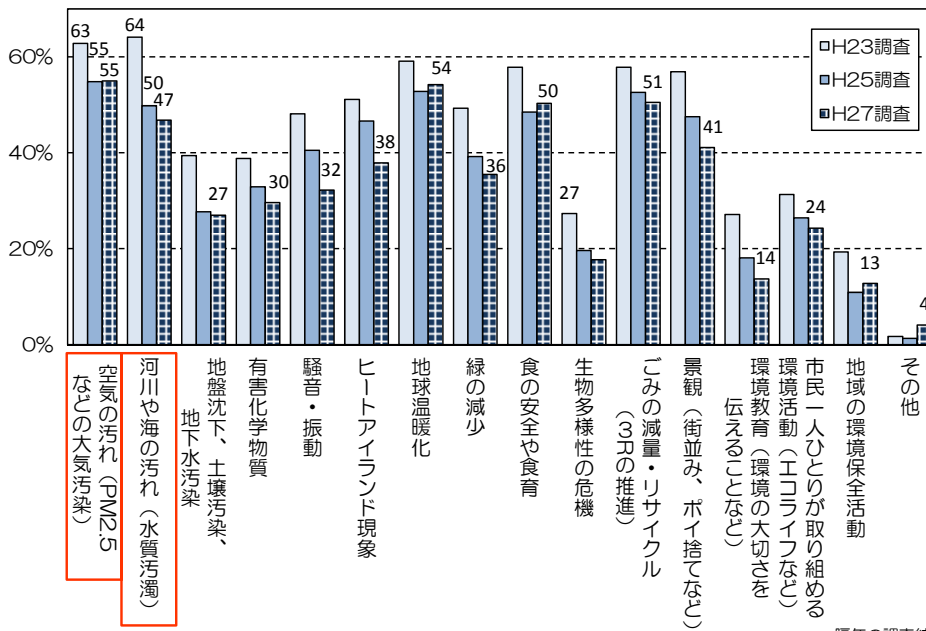


端数処理の関係で合計が100にならない場合があります。

Q6. 関心のある環境問題や環境活動について（複数回答） **経年変化**



例年、およそ2人に1人が「空気の汚れ(大気汚染)」「河川や海の汚れ(水質汚濁)」に関心

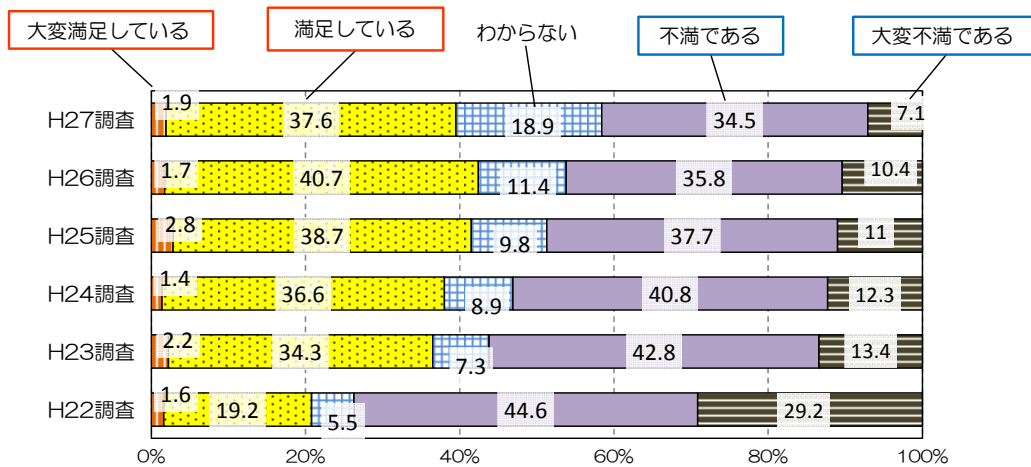


隔年の調査結果でグラフを整理しています。

Q3(9). 横浜市内の大気 (PM2.5 など) や騒音・振動などの状況について **経年変化**



「不満」「大変不満」は減少傾向だが、依然として満足と不満の比は1:1



## 大気汚染に関わる情報発信

### ❗ 光化学スモッグとは

工場や自動車などから出された排気ガスは、太陽の光を受けると化学反応を起こして、「光化学オキシダント」と呼ばれるものになります。夏、日射が強く、気温が高く、風が弱い日は、「光化学オキシダント」が空気の中にたまり、空が白いモヤがかかったようになって、遠くの山や建物が見えにくくなります。この状態のことを光化学スモッグといいます。光化学スモッグを浴びると、目や呼吸器などを痛めるおそれがあります。

### ❗ 光化学スモッグの注意報

横浜市では、光化学スモッグ注意報が発令されたときに携帯電話やパソコンにEメールでお知らせをしています。

★詳しくはこちら↓

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kanshi/worda/oxsmog.html>

### ❗ PM2.5（微小粒子状物質）とは

PM2.5とは空气中を飛んでいる小さな粒子のうち、大きさが2.5μ（マイクロ）m以下のものをいいます。これは髪の毛の太さの30分の1程度の大きさです。

PM2.5は非常に小さく肺の奥深くまで入りやすいため、喘息や気管支炎などの呼吸器系の疾患や肺がんなどのリスクを高めるおそれがあります。

### ❗ PM2.5の高濃度予報

神奈川県では、PM2.5の濃度が高くなる場合に備え、国の暫定基準値を超えるおそれがあると判定したとき、県内全域に注意喚起を行っています。

★詳しくはこちら↓

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f470290/>

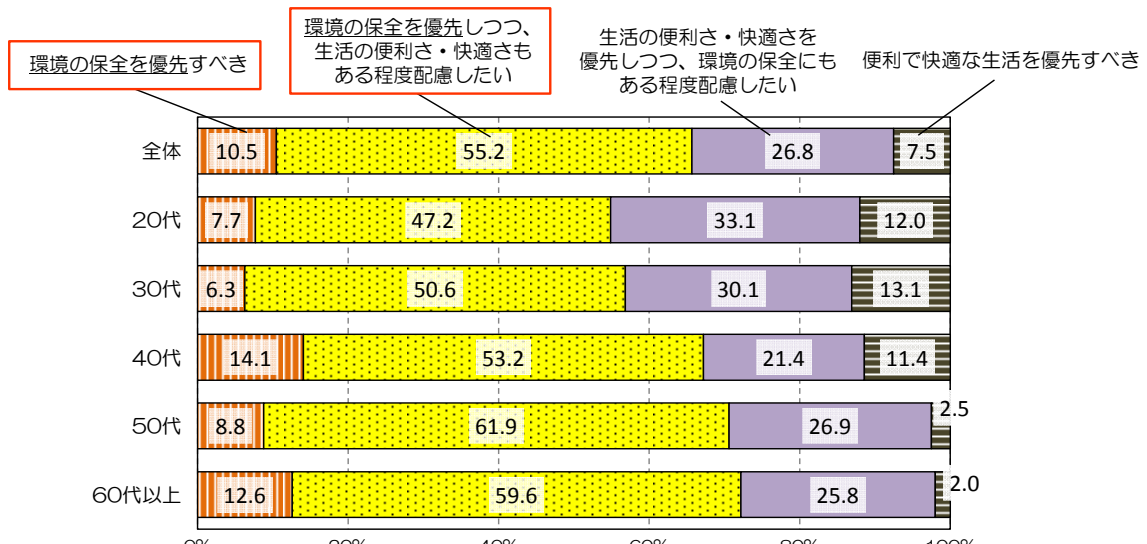


光化学スモッグ注意報が発令された日と発令されていない日の空の違い

## Q10. 環境の保全と生活の便利さ・快適さについて



「環境の保全を優先」が、全体では約7割、20代・30代では6割未満

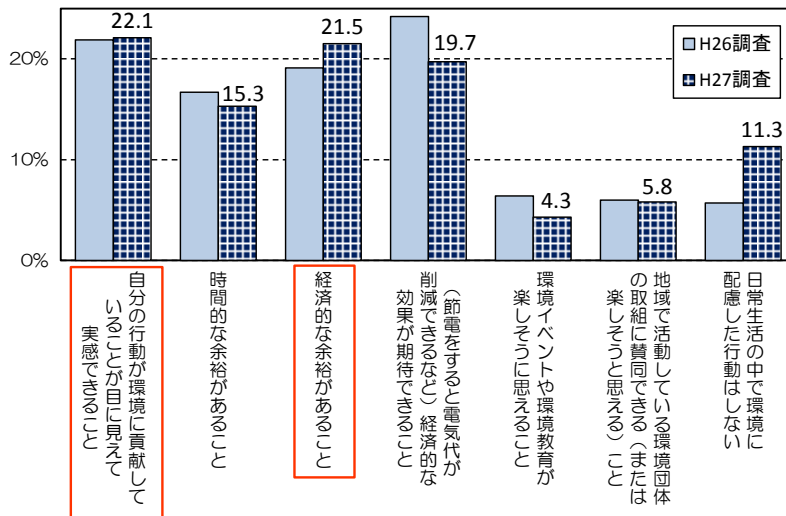


端数処理の関係で合計が100にならない場合があります。

Q8. 環境に配慮した行動をさらに進めるにあたって後押しとなるもの **経年変化**



後押しになるのは、「自分の行動が環境に貢献していることが目に見えて実感できること」  
「経済的な余裕があること」



横浜市の情報や支援制度をご活用ください

横浜市には、環境に配慮した行動を後押しする様々なお役立ち情報や支援制度があります。ぜひご活用ください。

横浜市 温暖化対策統括本部

Climate Change Policy Headquarters 温暖化対策統括本部

環境創造局 かけがえない環境を未来へ

スマートな住まい・住まいの方

コンテンツ 補助・助成

横浜市では、環境に関する様々な補助・助成・融資制度があります。また環境に役立つ様々な支援制度もあります。日々の環境活動にご利用ください。

- 人生記念樹
- よこはま緑の推進団体
- 認定農業者制度
- よこはま・ゆめファーマー
- 横浜市環境保全活動団体助成金
- 花と緑のみどころ事業
- 民有地緑化の助成
- 保育園・幼稚園・小中学校等の緑化の助成
- 苗木育成校地配布事業

★制度に関するページはこちら↓  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/ondan/futurecity/smart04.html> (温暖化対策統括本部)  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/hojo/> (環境創造局)

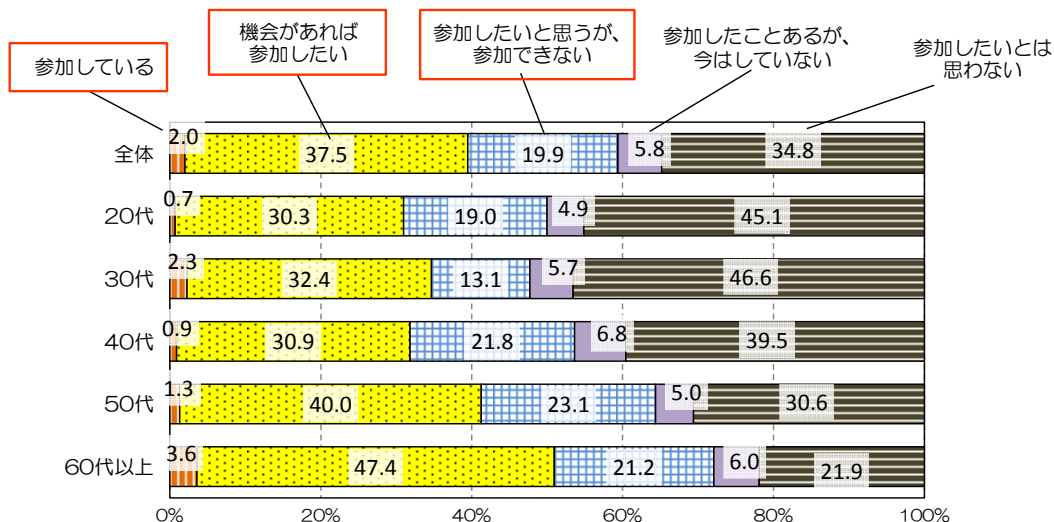
# 地域の環境活動への参加、情報収集について

- 回答者の半数以上が地域の環境活動に「機会があれば参加したい」「参加したいと思うが、参加できない」と感じており、60代以上の世代でこの傾向は強くなっています。この回答をした方に、どのような機会があれば参加するか伺ったところ、「興味のある活動が自分の近くで行われている」「時間に余裕がある」「どこでどのような活動が行われているか分かる」の順に多い回答でした。
- 環境に関する情報収集については、「あまり得られていない」「まったく得られていない」が約8割となっただけでなく、横浜市の情報発信に対しても「やや不十分」「不十分」「その取組を知らない」が約8割と、非常に満足度が低い結果でした。
- 横浜市では、ホームページや広報誌、イベントなど様々な媒体を通して情報発信を行っていますが、これらの結果から、市民の皆さまが求める情報を適切に把握するだけでなく、情報を、より簡潔・機能的に発信することができる仕組みを構築することも必要です。

## Q12. 地域の環境活動への参加について



年齢層が高いほど、意欲が高い



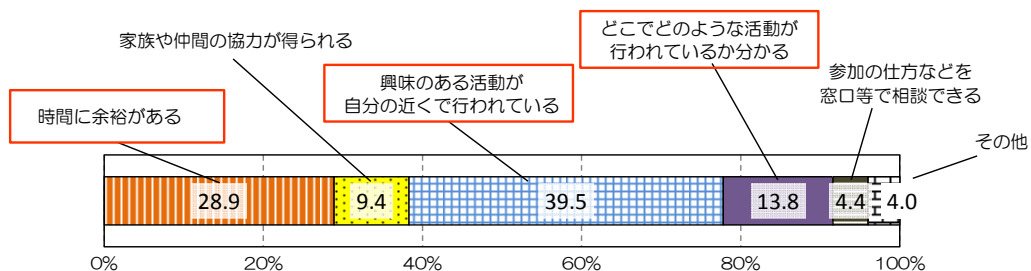
端数処理の関係で合計が100にならない場合があります。

## Q15. どのような機会等があれば地域の活動に参加するか

※ Q12で「機会があれば参加したい」「参加したいと思うが、参加できない」と選択した方のみ回答



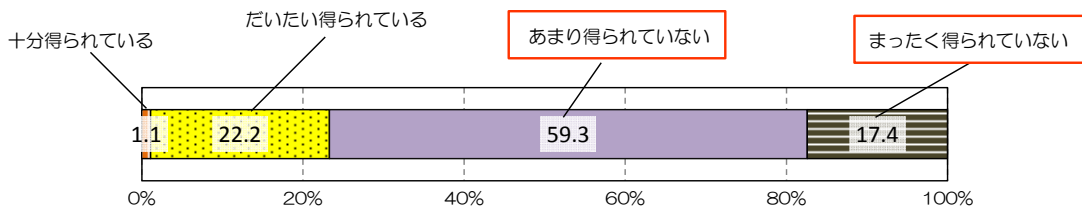
「興味のある活動が近くで行われている」「時間に余裕がある」「どこでどのような活動が行われているか分かる」が上位



Q17. 環境問題や環境活動に関して必要な情報は得られているか



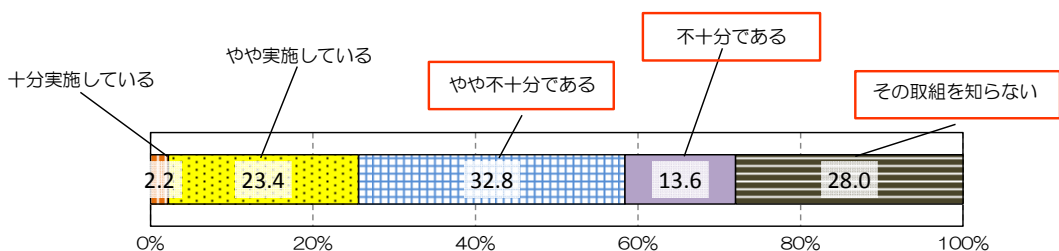
「あまり得られていない」「まったく得られていない」が約8割



Q34(17). 横浜市が現在行っている「情報の周知」について



「やや不十分」「不十分」「その取組を知らない」が約7割



環境活動情報はここでチェック！

横浜市では、環境に関連した施設やイベント、環境活動に取り組んでいる団体のリストなどを、環境創造局のポータルサイト「エコぼると」で集約的に公開しています。

環境のことを“知りたい”“やってみよう”そんな皆さまに、さまざまな情報を提供するポータルサイトが、「エコぼると」です。エコな取組を進めるきっかけを、ここで見つけてください。

★詳細はこちら↓

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/kkis/>



「イベントカレンダー」をクリックすれば、横浜市で開催されている環境イベントの情報が一度に検索できるよ。



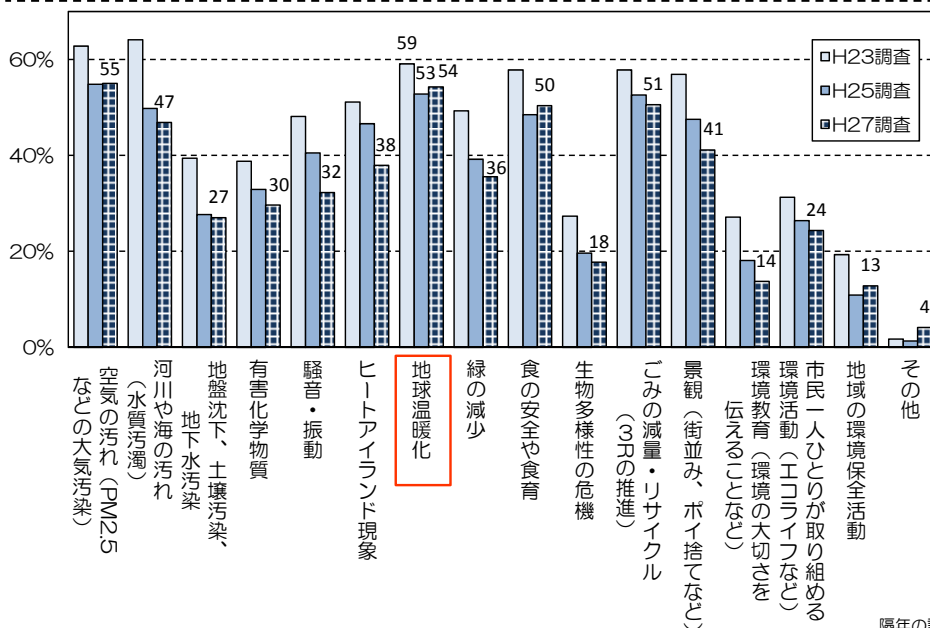
# 地球温暖化対策について

- 毎年度、回答者の半数以上が「地球温暖化」に関心を持っています。また、年々その影響が顕著になっているヒートアイランド現象については、回答者のおよそ半数が「以前より夏の夜が寝苦しくなった」と健康への影響を実感しています。さらに、回答者の約3人に1人が「以前より熱中症対策の商品や広告を多くみかける」と社会への影響を感じています。これらについては、年代別でその感じ方に差があります。
- 一方で多くの回答者が「クールビズ・ウォームビズを実践」しており、年代別で実践率にやや差があるものの、地球温暖化やヒートアイランド現象の影響を適切に軽減する「適応策」の一つが浸透しているといえます。

## Q6. 関心のある環境問題や環境活動について（複数回答） 経年変化【再掲】



例年、半数以上が「地球温暖化」に関心

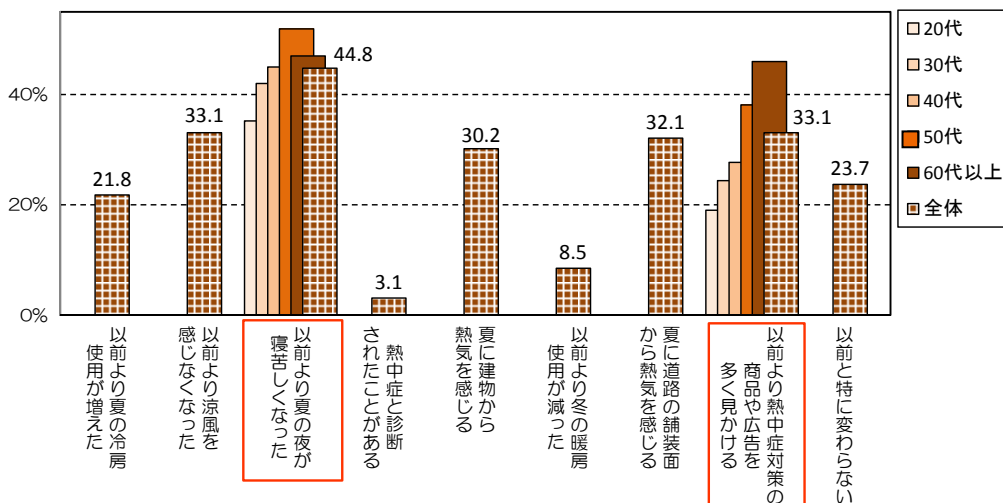


隔年の調査結果でグラフを整理しています。

## Q22. ヒートアイランド現象について日常的に強く感じること（複数回答）



「夏の夜が寝苦しくなった」「熱中症対策の商品や広告を多く見かける」が多い回答  
また、年齢層が高くなるほど実感が大きい

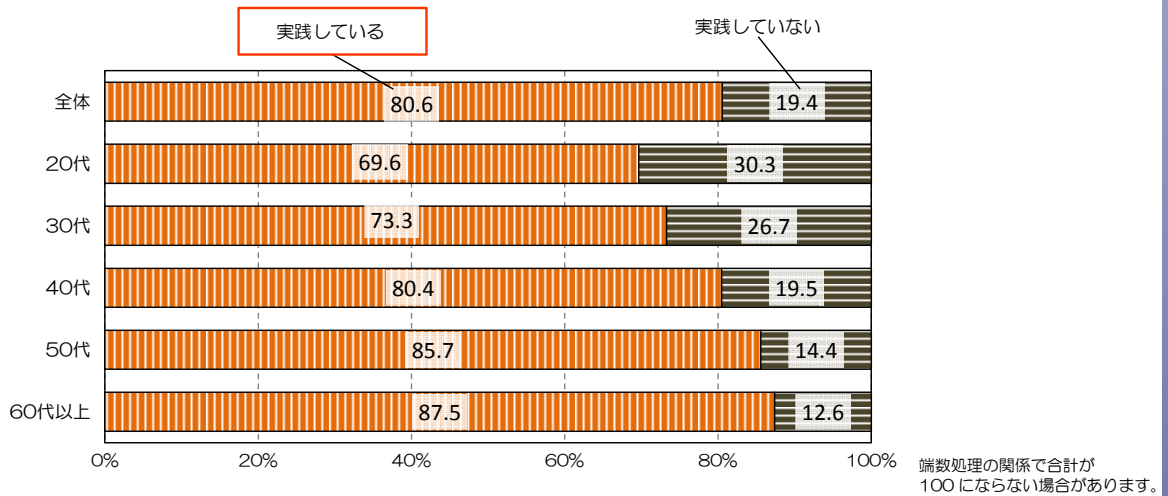


この質問は今年度から調査を開始しました。

Q4(6). 「クールビズ・ウォームビズなど適温冷房・適温暖房にあわせた服装を選択」をしているか。また、東日本大震災前と比較して意識や行動に変化はあるか  
 ※ 始めた時期を問わず、「実践している」「実践していない」で計上しています



全体の実践率は高いが、年齢層が低いほど、実践率も低い

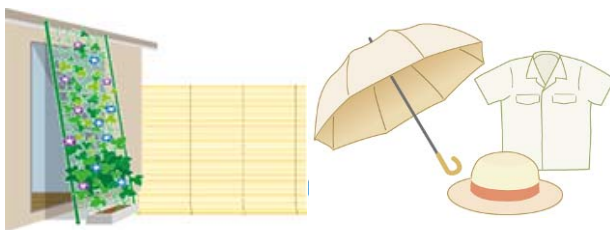


### 適切な夏の暑さ対策を

厳しい夏の暑さを乗り切ることや熱中症を予防する手段は、最新の技術を使ったものだけではありません。手軽に楽しみながらできることや、昔から日本に伝わる知恵や工夫を使った方法で夏を快適に過ごしてみましょ。

#### ● 日射を防ぐ ～簾(すだれ)や日傘の活用～

窓にすだれを設置することで日射を遮ることができます。特に窓の外側に設置すると、室内への熱の侵入を防ぐため、より効果的です。また、外出時に屋外で日傘を活用すると、直射日光を遮ることができ、体感温度を下げ発汗を抑えます。最近は女性だけでなく男性向けの日傘も広まっています。



#### ● 壁や窓を緑で覆う ～緑のカーテン～

夏にぐんぐん成長するゴーヤやヘチマなどのつる性の草は、たくさんの茂った葉が窓から入る直射日光を遮るため、室内の温度上昇を抑えます。また、建物の壁などに熱を蓄積させないため、ヒートアイランド現象の緩和にも効果があります。

#### ● 衣服や寝具などの素材を工夫する

すばやく汗を吸収し蒸発させる素材や通気性のよい素材などを衣服に選び、気温に合わせて調節することで、快適に過ごすことができます。また、寝具にもこのような素材や、イ草や麻などの素材を選べると、気温の高い夜でも寝苦しさが和らぎ、より快適に過ごすことができます。

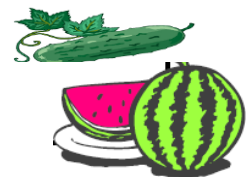
#### ● 地表面を冷やす ～打ち水～

早朝や夕方にバルコニーや庭などに雨水やお風呂の残り水などで打ち水をする、気化熱の効果によって、路面から受ける放射熱を低減することができます。また、見た目の涼しさも演出できます。



#### ● 食の知恵と工夫

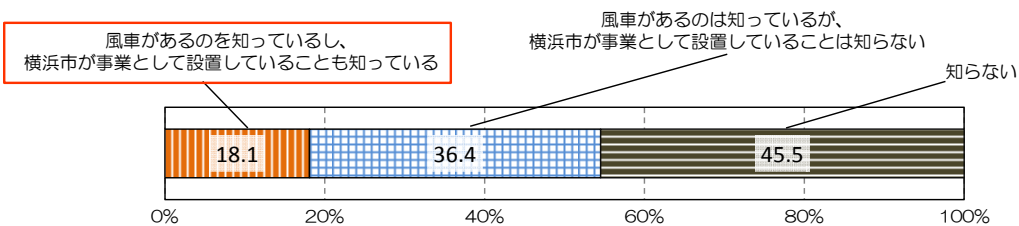
日本には様々な旬の食材や食文化があり、食生活を工夫して厳しい夏の暑さを乗り切ってきました。夏季には、すいかやきゅうり、トマトなど水分の多い野菜果物が出回るため、熱中症対策にもなります。また、そうめんやところてんなどは見た目にも涼を感じることができる伝統的な食文化です。



## Q21. 横浜市風力発電所（愛称「ハマウイング」）の認知度



横浜市の事業として「ハマウイング」を知っているのは2割未満



### ハマウイング見学できます！



横浜市では、平成 19 年から神奈川区瑞穂埠頭に風力発電所（愛称「ハマウイング」）を設置しています。この事業は市民の皆さまを対象とした公募債の発行や、企業の皆さまに事業協賛をいただきながら進めています。

市民の皆さまに間近で風車を体験していただく見学会の開催や、学校などの団体の方からの見学のご希望をホームページで受け付けています。



★詳細はこちら↓

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/ondan/furyoku/visit/>

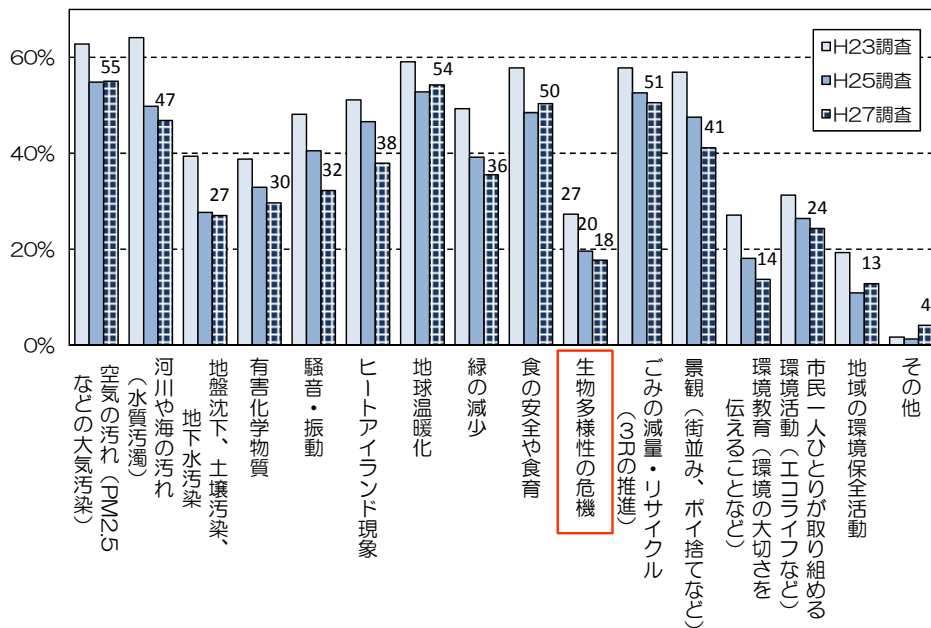
# 生物多様性について

- 「生物多様性の危機」に対する関心は、例年他の環境問題と比べると低い傾向です。それでも、7割近くの回答者が生物多様性の危機を身近な問題として捉えています。年代別に見ると20代と60代以上の年齢層で差があります。
- 横浜市への要望については、「生き物のすむ川、水辺の整備」「外来生物への対策」「都市部の緑の創造」が例年多い回答となっています。「行事・イベントの充実」は例年他と比べて少なく、より関心を持っていただけるような魅力ある機会を創出する必要があります。また、生物多様性の取組は自治体のみだけでなく、広域的に「市民・企業との協働」によって取り組むことも必要です。

## Q6. 関心のある環境問題や環境活動について（複数回答） 経年変化【再掲】



例年、「生物多様性の危機」は他と比べて低い

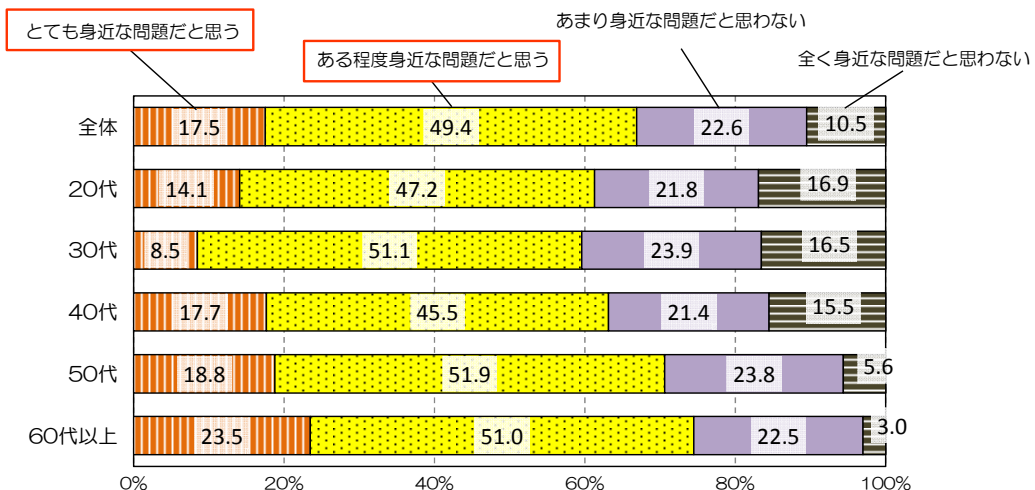


隔年の調査結果でグラフを整理しています。

## Q24. 生物多様性の危機が身近な問題と思うか



年齢層が高いほど、身近な問題として捉えている

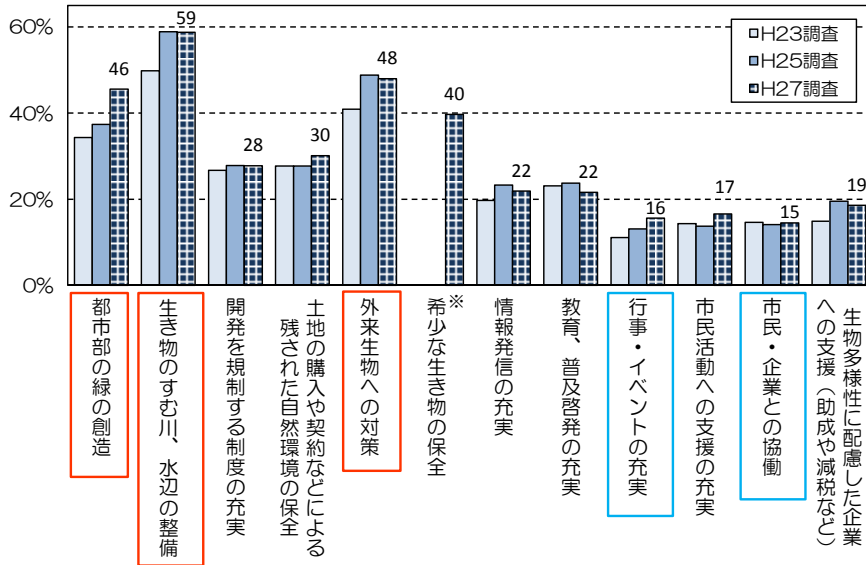


端数処理の関係で合計が100にならない場合があります。

Q25. 横浜市の生物多様性に関する取組のうち必要だと思うもの（複数回答） **経年変化**



例年、「生き物の住む川、水辺の整備」「外来生物への対策」「都市部の緑の創造」が多く、「行事・イベントの充実」「市民・企業との協働」が少ない



※ 平成 26 年度調査から選択肢に追加しました。隔年の調査結果でグラフを整理しています。

夏休みに生き物調査に参加しよう！

横浜市内には、生き物がたくさん見られる場所と、あまり見られない場所があります。また、同じ場所でも今と昔とでは住んでいる生き物が代わってしまっていることもあります。

そこで、どのような生き物がどのような場所にいるのか、みなさん1人ひとりが「生き物調査員」になって調査して、その結果を教えてください。

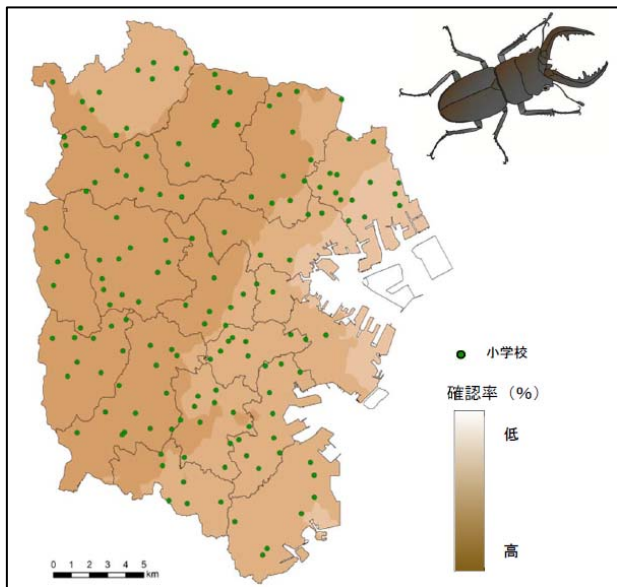
**教えて！ おなたが見つけた生き物たち 2014**

学校名: \_\_\_\_\_ 小学校 年 組 \_\_\_\_\_

この1年間(去年の9月1日～今年の8月31日)に、家や学校の近くでどんな生き物を見ましたか？ 見つけたものを全部に○をつけてみよう！

<b>ツバメの巣</b>  今年使われた巣を見つけた時だけ数えてね。	<b>つくし</b>  春から日なたには出ていたかな？ 食べられる種類だよ。	<b>カワセミ</b>  川や池に飛び込んで魚をつかまえるよ。
<b>ノコギリクワガタ</b>  オスのホ(大あご)にはオスがオスがいつばい。	<b>アマガエル</b>  目の色は黒いよ。	<b>クマゼミ(の鳴き声)</b>  シンアシアシアアアと大きな音で鳴くと日本では一番大きいよ。
<b>アライグマ</b>  尻尾が巻いて魚をつかまえる。夜に行きまわることが多いよ。	<b>タヌキ</b>  顔が丸い。いっしょにいるはず。夜に行きまわることが多いよ。	<b>ハウピシン</b>  顔が丸いよ。尻尾が巻いて魚をつかまえる。夜に行きまわることが多いよ。

みんなはいくつ見つけたかな？  
家や学校がある場所によって、見つかる生き物の種類は、ちがうはず！  
まわりのお友達とは、いくつ見つけたかな？  
横浜市内ならどこにでもいる生き物もっているよ！



★詳細はこちら ↓

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/ikiiki.html>

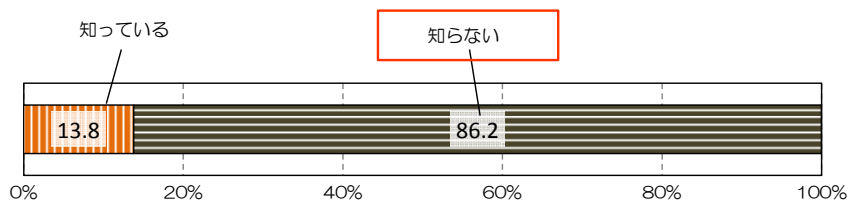
# 水とみどりについて

- ・「雨水浸透ますの設置への助成金」への認知度は低い結果となっています。
- ・「公園」「自宅の庭やベランダ」「街路樹や生け垣」など住まいに近い環境で、また、年齢層が高いほど緑を実感している傾向です。
- ・横浜市では、山下公園やグランモール公園、横浜公園などにおいて、賑わいや魅力につながる緑や花の取組を積極的に進めています。「公園や道路、河川沿いの緑の保全・創出」「都心臨海部など市街地での緑の保全・創出」に対する要望は毎年度高いものの、「都心臨海部など市街地での緑の保全・創出」については、回答者の約7割が「やや不十分」「不十分」「その取組を知らない」と満足度の低い結果となりました。

## Q30. 横浜市が実施している雨水浸透ます設置への助成金の認知度



「知らない」が9割近く



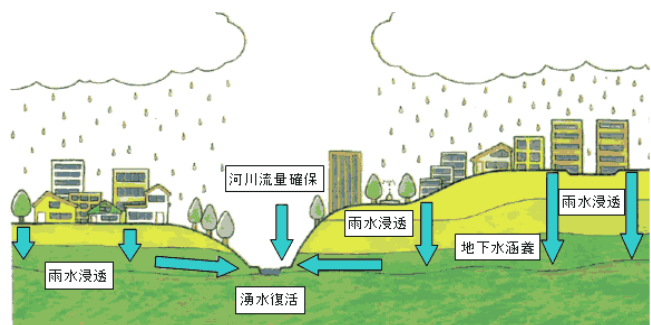
### 水循環の取組を応援しています

都市化の進展に伴い、本来、自然が有していた雨水浸透機能が喪失しています。自然の水循環が回復すると、土中や河川などの生き物の生息・生育環境の改善や、大雨や台風時の浸水被害の軽減にもつながります。

横浜市では、水循環機能の取組を進めるとともに、「雨水浸透ます」と「雨水貯留タンク」の設置に対して助成金を交付しています。

★詳細はこちら↓

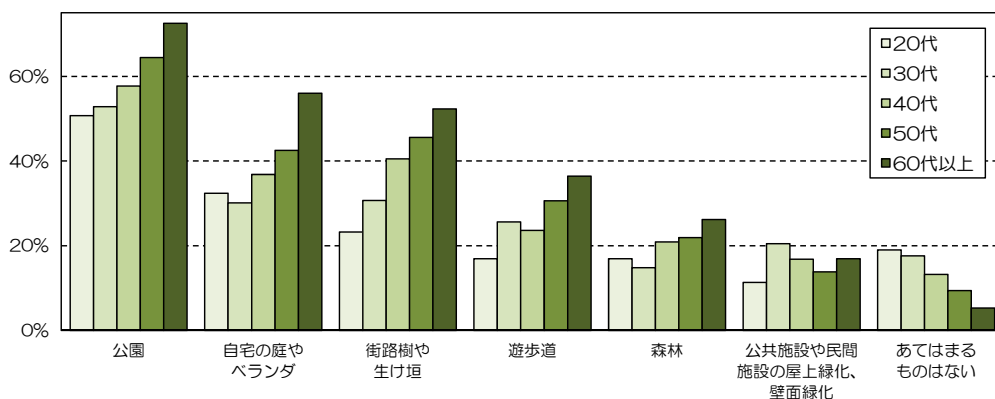
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/gesui/>



## Q26. 身近に緑を感じられる環境はどこか（複数回答）【一部抜粋】



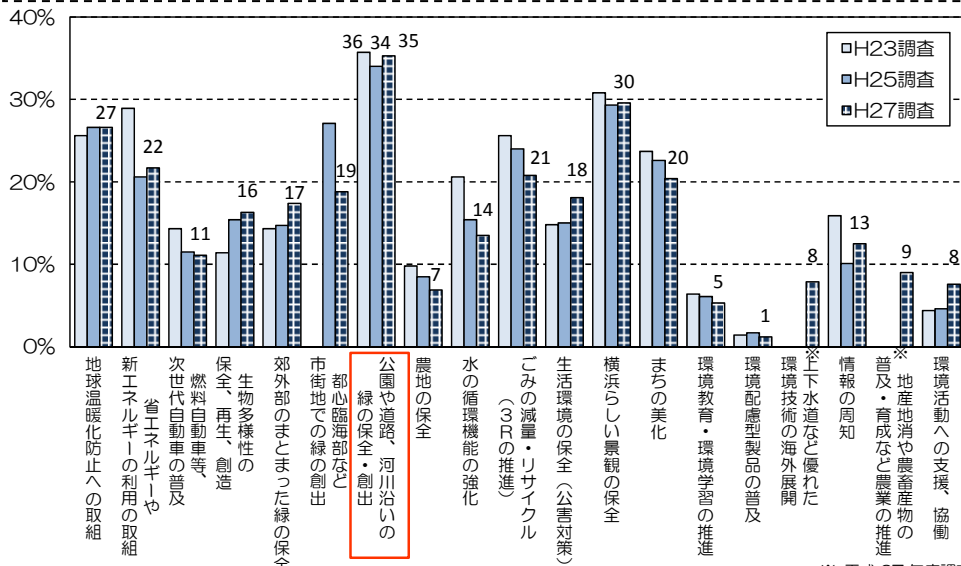
より住まいに近い環境で、年齢層が高いほど、緑を実感



Q35. 横浜市に優先的に取り組んでほしいこと（3つ選択）**経年変化**



毎年度、「公園や道路、河川沿いの緑の保全・創出」が最多

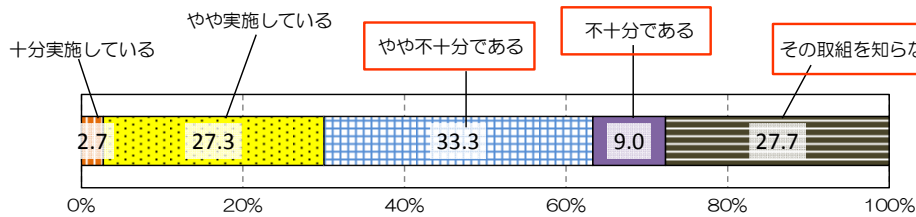


※ 平成 27 年度調査から選択肢に追加しました。  
隔年の調査結果でグラフを整理しています。

Q34(6). 横浜市が現在行っている「都心臨海部など市街地での緑の創出」について



「やや不十分」「不十分」「その取組を知らない」が7割



都心臨海部で緑や花を楽しもう！

横浜市では、多くの市民の皆さまや国内外からの観光客が訪れる、みなとみらい21地区から山下地区を中心とした都心臨海部で、緑や花による空間演出を集中的に展開し、いつ訪れても緑や花で彩られた魅力ある街となるような取組を進めています。

①



③



⑤



②



④



- 写真① 山下公園（中区）
- 写真② 新港中央広場（中区）
- 写真③ 横浜公園（中区）
- 写真④ グランモール公園（西区）
- 写真⑤ 港の見える丘公園（中区）

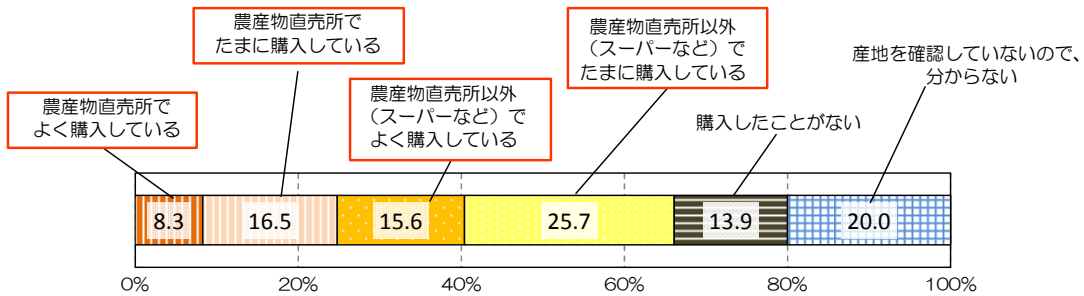
# 食と農について

- 回答者の7割近くが、よく、または、たまに「横浜産の農畜産物を購入」しています。市内には約 1,000 の直売所があり、季節感のある新鮮な農畜産物を購入する機会が多くあります。また、回答者の半数以上が「食の安全と食育」に関心を持っていることから、生産者の顔が見える地元の安心できるものを求めていることが伺えます。

## Q31. 横浜産の農畜産物を購入しているか



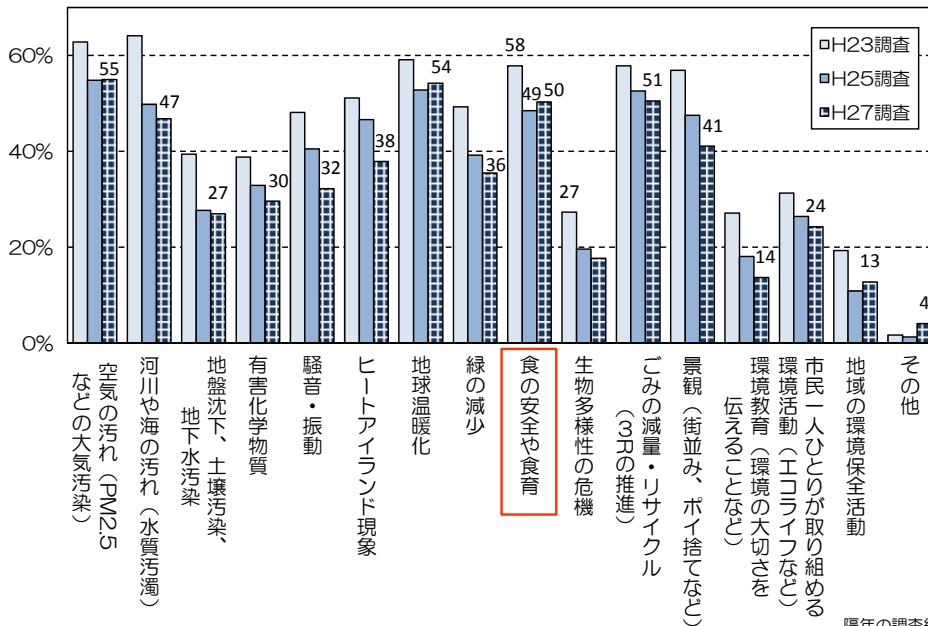
7割近くが「よく購入している」「たまに購入している」



## Q6. 関心のある環境問題や環境活動について (複数回答) 経年変化【再掲】



例年、2人に1人が「食の安全や食育」に関心



隔年の調査結果でグラフを整理しています。

横浜でとれた旬の野菜や果物を買に行こう！

横浜市では、市内で生産された農産物を販売している直売所を紹介する「はま菜ちゃん直売 Map」を作成しました。市内のとれたて新鮮で季節を感じる旬の野菜や果物をここで探してください。

★「はま菜ちゃん直売 Map」はこちら↓  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/nousan/brand/cyokumap.html>





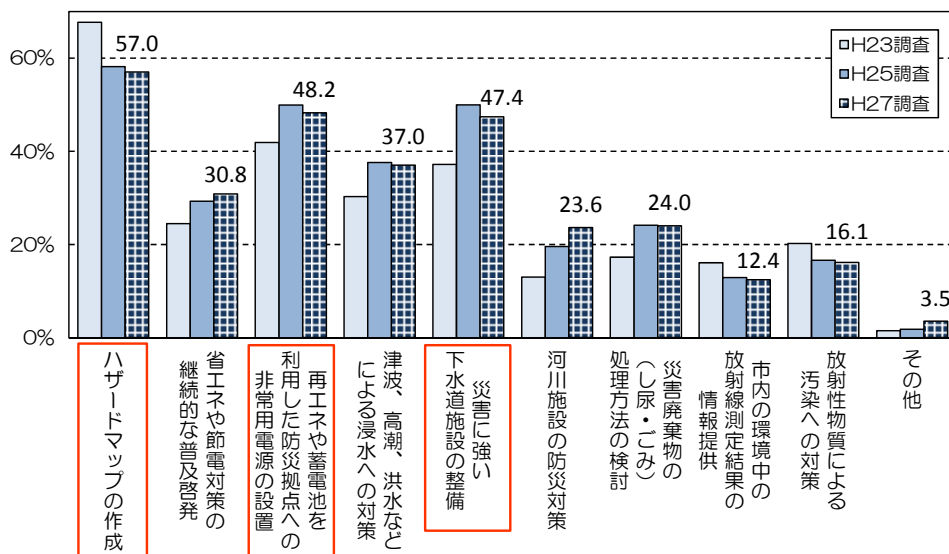
# 防災・減災に資する環境施策

- ・毎年度「ハザードマップの作成」が最も多い回答となっています。近年多発している局地的大雨や大型台風への備えに対する意識の高さが伺えます。
- ・「再生可能エネルギーや蓄電池を利用した防災拠点への非常用電源の設置」「災害に強い下水道施設の整備」についても、例年多い回答となっています。大きな災害への備えとして、エネルギーの自立化が求められる中、横浜市では特別避難場所への太陽光発電及び蓄電池の設置、下水道施設の上部空間を有効活用した太陽光発電事業など、公共施設におけるエネルギーの確保にも積極的に取り組んでいます。

## Q36. 横浜市が防災・減災対策として優先的に取り組むべき環境施策（3つ選択）経年変化



毎年度、「ハザードマップの作成」が最多



隔年の調査結果でグラフを整理しています。

## 自然災害への備え

横浜市では、ハザードマップや液状化マップなど、地震や大雨などの自然災害に備えるために必要な情報を、横浜市民防災情報「わいわい防災マップ」で公開しています。

### ハザードマップの紹介

#### ●洪水ハザードマップ

河川が増水し、堤防が決壊したり、あふれたりしたときに被害がおよぶおそれのある区域や避難所などを地図化したもの

#### ●内水ハザードマップ

下水道や水路に起因した浸水区域や水深などの情報を地図化したもの

#### ●土砂災害ハザードマップ

崖崩れが発生した場合に被害がおよぶおそれのある区域や避難所を地図化したもの



#### 利用規約

##### 横浜市民防災情報「わいわい防災マップ」のご利用にあたって

このページでは、市民の防災意識の向上を図り、市民自らが地震等の被害軽減対策を行なうために必要な情報を簡単な操作で知ることができます。

##### 保守・障害情報 その他トピックス

###### <NEW トピックス>

【平成27年度WEBページバナー広告主の募集について】  
平成27年度分の広告主募集を開始しました。  
詳しくはこちらをご覧ください。

【和泉中央南一丁目～三丁目の住所検索について】  
平成26年10月20日に実施された和泉中央南一丁目～三丁目の住所表示は本システムには反映されていません。ご不便をおかけしますが地図・目録物や旧住所から検索いただけますようお願いいたします。

★「わいわい防災マップ」はこちら↓

<http://www.city.yokohama.lg.jp/agreement.asp?dtp=6&npg=%2Findex%2Easp>